

第3回青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会 次第

日時 令和元年10月17日(木)

午後1時30分～

場所 大栄農村環境改善センター

会議室2・3

1 開 会

2 会長挨拶

3 報告事項

4 議 事

(1) アンケート調査結果について (P.3)

(2) 視察研修結果について (P.4～6)

(3) 提言書(案)について (P.7～13)

5 その他

6 閉 会

青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会委員名簿

氏名	役職等	備考
たけとし かずひろ 竹歳 和博	由良宿自治会長会会長	自治会
やまます けいいち 山栴 敬一	北栄町観光協会会長	観光協会（請願者）
つのだ よしお 角田 芳夫	北栄町商工会副会長	商工団体（請願者）
きわだ としみち 澤田 廉路	株式会社地域資源活用研究所代表取締役 元鳥取大学地域学部特命准教授（地域再生担当）	学識経験者
よしむら かずま 吉村 和真	京都精華大学副学長兼マンガ学部教授 京都精華大学国際マンガ研究センター研究員	学識経験者
みの かつか 養 豊	兵庫県立美術館館長 金沢 21 世紀美術館特任館長	展示施設
しみず ゆみこ 清水 裕美子		公募委員
ふじき ともみ 藤木 智美		公募委員
たなか あみ 田中 文	北栄マンガ寺子屋倶楽部部員	その他町長が必要と認める者（請願者）
はまぐち くに彦 濱口 国彦	由良宿まちづくりの会理事	その他町長が必要と認める者（請願者）
やまおか のりき 山岡 憲樹	特定非営利活動法人とっとり希望化計画 2 1 理事長	その他町長が必要と認める者
ごとう めい 後藤 芽唯	北栄町地域おこし協力隊（「コナンの聖地」観光地づくり担当）	その他町長が必要と認める者

《オブザーバー》

所属	役職	氏名
鳥取県まんが王国官房	官房長	森田 美穂

《事務局》

所属	役職	氏名
北栄町	副町長	手嶋 俊樹
北栄町	地方創生監	渋谷 潤
北栄町観光交流課	課長	松本 裕実
北栄町観光交流課観光戦略室	室長	永田 裕一
北栄町観光交流課観光戦略室	主事	竹歳美穂子
北栄町観光交流課観光戦略室	主事	宍戸 史歩
青山剛昌ふるさと館	館長	石田 敏光

青山剛昌ふるさと館の施設のあり方検討の進め方

◆平成31年度（令和元年度）

時期	青山剛昌ふるさと館の施設のあり方検討委員会	その他
4月	検討委員会設置要綱の制定・施行 公募委員2名募集（4月25日～5月24日）	
5月		
6月	第1回（6月11日）場所：北栄町中央公民館大栄分館 ・現状説明、進め方、会長選出 ・ふるさと館施設見学	
7月	第2回（7月9日）場所：北栄町大栄農村環境改善センター ・課題抽出、解決策の検討（視察、アンケートの説明）	【アンケート調査】 ・ふるさと館入館者
8月		【アンケート調査】 ・町民意識調査
9月	視察研修 ・委員をコース別に3班に分けて視察（各班に職員が随行） ⇒視察後のレポート提出	【9月議会】 ・補正要求（アドバイザー旅費等）
10月	第3回（10月17日）場所：北栄町大栄農村環境改善センター ・視察内容の報告、解決策の集約 ・提言書案（コンセプト）の検討	
11月	第4回（11月19日）場所：北栄町大栄農村環境改善センター ・検討結果と方針のまとめ ⇒アドバイザー招聘による意見聴取 ・提言書案（役割と機能、整備方針）の検討	
12月		
1月	（第5回） ・提言書の最終確認	
2月		
3月	・提言書を町へ提出	

◆令和2年度

- ・前年度にまとめた方針に従い、施設整備の基本構想について検討、提言。
（役割と機能、整備方針、運営方針等）

青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会アンケート調査 結果報告書

1. アンケート調査の実施

青山剛昌ふるさと館のあり方を検討するにあたって、入館者および町民の方が青山剛昌ふるさと館についてどのように考えていらっしゃるかを十分に把握するため、以下の2調査を実施した。

- 青山剛昌ふるさと館入館者アンケート調査
- 町民アンケート調査

2. アンケート調査の概要

(1) 青山剛昌ふるさと館入館者アンケート調査

①調査の目的

入館者が感じている現在の青山剛昌ふるさと館の課題を把握することを目的とする。

②アンケート調査の方法

調査対象	青山剛昌ふるさと館の入館者（日本人 547 名、外国人 129 名）
調査期間	令和元年 8 月 1 日（木）～8 月 5 日（月）
配布・回収方法	青山剛昌ふるさと館内で手渡し配布。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ A3 両面 1 枚 ・ 受け取った方に記入していただく形式
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人属性 ・ 青山剛昌ふるさと館について（入館回数、入館理由、感想） ・ 青山剛昌ふるさと館のリニューアルの必要性の有無 ・ 今回の旅行での支出金額
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人入館者向けに中国語版（繁体字、簡体字）・韓国語版・英語版のアンケートを実施した。

(2) 町民アンケート調査

①調査の目的

町民の方が青山剛昌ふるさと館についてどのように考えていらっしゃるかを把握することを目的とする。

②アンケート調査の方法

調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内在住の 1,500 名を無作為抽出（対象者の抽出・ラベル作成は事務局が実施） ・ 16 歳以上を対象とする。
回収数	517 件（回答率：34.4%）
調査期間	令和元年 8 月 9 日（金）発送 令和元年 9 月 26 日（金）到着分まで集計
配布・回収方法	郵送
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ A3 両面 1 枚 ・ 受け取った方（届いた名前の方）に記入していただく形式
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人属性 ・ 青山剛昌先生や青山剛昌ふるさと館の認知 ・ 青山剛昌ふるさと館について（入館経験、入館・未入館理由、感想） ・ 青山剛昌ふるさと館のリニューアルの必要性の有無

視察研修結果まとめ

黒字・・・青山剛昌ふるさと館の課題
赤字・・・視察研修で参考となった他の施設の取組み

	町としての課題	喫緊の課題と対策	長期的な課題と対策
青山剛昌ふるさと館に関する事 展示に関する事	<p>○展示スペースの確保 ・青山剛昌先生からゆずり受けた大量の貴重な所蔵品(原画、グッズなど)を有効に活用して展示するスペースが不足している。</p>		<p>○展示スペースの充実 ・どのような手法で描かれているのか説明書きの設置。 ・単行本を読むスペースの設置。 ・特別展示室の設置。 ・導線の確保(手塚治虫記念館) ・小さい子向けの配慮(手塚治虫記念館) ・単行本を読むスペースの確保。(手塚治虫記念館) ・湿度管理の出来る展示ケース(手塚治虫記念館) ・シアタールーム(手塚治虫記念館) ・読書コーナー(手塚治虫記念館) ・電子書籍(wi-fi設備も必要)(手塚治虫記念館) ・展示スペースの温度・湿度管理(兵庫県立美術館) ・常設展示の入れ替え(兵庫県立美術館) ・常設スペース稼働壁(兵庫県立美術館) ・漫画づくりブース、イラスト展覧会、漫画コーナー(手塚治虫記念館) ・紙芝居、読書スペース、作家の手など見せ方、サービスが工夫されている。(京都国際マンガミュージアム) ・作者に関するコーナーとキャラクターのコーナーがきちんと分けられている。(藤子・F・不二雄ミュージアム) ・デジタル技術を活用した展示(のび太の家の模型に備え付けてるタブレットをかざすと、のび太やドラえもんが表示される等)(藤子・F・不二雄ミュージアム) ・ソファと本棚が一体になっていた。(藤子・F・不二雄ミュージアム) ・展示内容に応じた照明(原画展示室は暗く。子どもが楽しめるエリアは明るく)(藤子・F・不二雄ミュージアム) ・設計段階からやなせ先生の意見が反映されており、壁や展示物の配色、先生直筆の壁画など、ファンにはたまらない見どころ。(やなせたかし記念館) ・子どもの目線に合わせた展示や案内。(やなせたかし記念館) ・定期的な展示の刷新(やなせたかし記念館は5年周期)(やなせたかし記念館) ・白い壁のコーナー、展示内容を入れ替えやすいディスプレイ(横山隆一記念まんが館) ・無料でまんがが読めるライブラリーコーナー(横山隆一記念まんが館)</p> <p>○ワークショップ ・写し絵、粘土づくり、砂絵など20分程度で終わるワークショップを実施。 ・ワークショップスペースの確保(手塚治虫記念館、横山隆一記念まんが館)</p> <p>○企画展の取組み ・さまざまなジャンルとのコラボした特別展示(手塚治虫記念館) ・企画展示室の設置(兵庫県立美術館) ・企画展を積極的に開催し、都会でしか見られないものを地元で見られるという強みがある。(横山隆一記念まんが館)</p> <p>○音声ガイド ・音声ガイドの貸し出しにより、外国人観光客や聴覚障害者にも対応。(藤子・F・不二雄ミュージアム)</p> <p>○展示のバリアフリー化 ・視覚障がいや聴覚障がいのある方にも配慮ある展示・説明書き。(高知みらい科学館) ・聴覚障害者向けのパンフレット(藤子・F・不二雄ミュージアム)</p>

視察研修結果まとめ

黒字・・・青山剛昌ふるさと館の課題
赤字・・・視察研修で参考となった他の施設の取組み

青山剛昌ふるさと館に関すること 施設に関すること	<p>○所蔵品の保管</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵品の保存スペースがない(原画は役場出納室や青山剛昌ふるさと館の金庫で保管、グッズは青山剛昌ふるさと館敷地内のプレハブ小屋で保管) <p>○バリアフリー対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターがなく(構造上も設置不可)、車椅子、歩行が不自由な方が気軽に利用できる施設となっていない。 <p>○館内設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授乳スペースやオムツ交換スペース、子供用トイレ等がない。 <p>○インバウンド観光客への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wifi環境の整備 ・展示物や案内の多言語化 ・外国語が話せるスタッフの確保 ・クレジットカード決済対応 ・ムスリム旅行者対応(礼拝環境の整備) 	<p>○入場時の混雑緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の出入り口の外側にチケット売り場専用の別棟を設置する。 ・券売機を導入する。チケットに入館時間を記し、入館の入れ替え制をとる。 ・特に混雑するGW中は、インターネットで前売り券を販売する。 ・年間パスポートを販売する。 ・チケット販売機の導入(手塚治虫記念館、京都国際マンガミュージアム) <p>○館内の利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コインロッカーの設置。 ・有料の手荷物預かりコーナーの設置。 ・多言語表記の案内板の設置。 <p>○インバウンド観光客への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通訳の配置(繁忙期に留学生バイトを雇用) ・受付に外国語対応可能なスタッフの配置(京都国際マンガミュージアム) <p>○ミュージアムショップの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館敷地屋外に、簡易カフェもしくは移動式ワゴン販売(飲食、お土産)のスペースを確保。季節感のあるグッズ(夏は水を使ったグッズ、冬は暖を取れるグッズ)を販売する。 ・レイアウトの工夫。企画展のグッズを前面に置く(手塚治虫記念館) <p>○ミュージアムショップの利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジでの支払いで、スマホが使えるようにする。 <p>○ミュージアムショップの混雑緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジを出口側にも配置する(売店を通して退館する動線) 	<p>○今後の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いの広場に現在の施設の一部を移転。新築する建物は町を代表するコミュニティ施設(公民館機能や改善センター機能など)として、観光客やコナンファンだけでなく北栄町民も幅広く利用できる施設にする。 ・商業施設を併設する。 ・現在の青山剛昌ふるさと館は原画を中心とした展示にする。 ・移転新築すべき。 ・美術の展示とアミューズメント体験が混在しているため、多くの来場者があつた場合には混雑の要因となる。美術の展示スペースと、アミューズメント体験スペースの建物を分ける。 ・展示コーナーだけでなく、体感施設や学習・人材育成コーナーを複合的に組み合わせた施設とする。 ・現在の施設のままで由良宿内に人の流れをつくり、来訪者数が増えた後、新たな青山剛昌ふるさと館の建設に向かうのが良いのではないか。 <p>○所蔵品の保管</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の収蔵庫を整備する。 ・空調設備、管理者以外でも探しやすい棚、作業スペースの確保。(手塚治虫記念館) ・広いスペースに温湿度管理、原画の為にストレージBOXが必要。(兵庫県立美術館) ・原画のデジタル化(手塚治虫記念館) ・ガラス張りの収蔵庫(横尾忠則現代美術館) ・バグトラップ(侵入した虫の記録)(兵庫県立美術館) ・紙の伸縮⇒温度管理。中質材(酸性をアルカリ性で中和したものは不可。無酸のものを。中性紙。)(兵庫県立美術館) ・粘着力のあるシート(薬剤のないゴキブリホイホイのようなもの)で虫のモニタリング。(兵庫県立美術館) ・空調、セパレートでレベル分け。消火の仕方も場所ごとに、何が最適かを考えて設計。(兵庫県立美術館) ・保存・保管と活用しながら保管する際の管理方法の違い。(横尾忠則現代美術館) ・一般の方も見学可能な収蔵庫(事前予約制)(横尾忠則現代美術館) ・アーカイブがあり、資料の閲覧が可能。作者が利用したものも見られるので、デザインや漫画などの勉強をしている人の関心も高まる。(横尾忠則現代美術館) ・虫や野生動物の侵入を防ぐための厳重な収蔵庫設備。(やなせたかし記念館) ・トラックで入庫でき、車庫内で天候に関わらず荷卸しできる。24時間温湿度管理するために、二重扉⇒待機室⇒二重扉⇒保管庫という造りになっている(やなせたかし記念館) <p>○インバウンド観光客への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人向け音声案内の導入。 ・多言語対応(アプリ、パネル等)(横山隆一記念まんが館) <p>○バリアフリー対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの設置。 ・エレベーター設置。(手塚治虫記念館) ・点字ブロックの設置。(横山隆一記念まんが館) <p>○館内設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの増設。 ・授乳スペース、男女どちらでも入室できるオムツ交換室の設置。 ・スタッフ用の休憩室やトイレの設置。 ・応接室、会議室、お客さま用休憩スペースの設置。 ・控え室、応接室、救護スペース、多目的ルームなどの設置。(手塚治虫記念館) ・LED照明(手塚治虫記念館) ・ガス消火(兵庫県立美術館) ・動(キッズスペース、シアター)と静(原画コーナー)が分けられている。(藤子・F・不二雄ミュージアム) ・子どもへの配慮(ゆったりした階段、廊下、芝生広場など)((藤子・F・不二雄ミュージアム) ・同施設内に食事が出来るカフェレストランを設置。(横山隆一記念まんが館) <p>○館外設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前庭の設置と活用(芝張り、モニュメントの設置)(やなせたかし記念館) <p>○団体客受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目的の施設ということもあり、1〜2クラスが展示を見学している間に、他の1〜2クラスが体験や実験が出来るような設備・時間設定となっていた。(高知みらい科学館) <p>○カフェ・レストラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストランメニューや皿は漫画に出てくるエピソードを反映。ランチョンマットには該当部分の漫画が印刷されていた。(藤子・F・不二雄ミュージアム) <p>○写真撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お子様にはキャラクターぬいぐるみをスタッフが貸出し、写真撮影を行う。(藤子・F・不二雄ミュージアム)
-----------------------------	--	---	--

視察研修研修結果まとめ

黒字・・・青山剛昌ふるさと館の課題
赤字・・・視察研修で参考となった他の施設の取組み

<p>青山剛昌ふるさと館に関すること その他</p>	<p>○お客様に楽しんでいただける仕掛けづくり ・館内の音楽をコナンのテーマ曲にし、区切りの時間(正午など)は工夫した音楽や効果音を使う。 ・宝探し、コナンのキャラクターすくい、綿菓子、人形焼など) ・誕生日の方に招待ポストカードを送る。誕生日は入館無料、誕生日の前後は入館料の割引、同行者割引を設定するなどの工夫をする ・宝塚市民(65歳以上)入館無料。(手塚治虫記念館) ・特別展と併せた近隣飲食店とのコラボ。(手塚治虫記念館) ・地元小学生の招待。(兵庫県立美術館) ・案内パンフレットが漫画で案内されている。(京都国際マンガミュージアム)</p> <p>○二次交通の整備 ・由良駅～青山剛昌ふるさと館の間でマイクロバス運行(片道100円程度)</p>	<p>○その他 ・青山剛昌ふるさと館のコンセプトの明確化。 ・学芸員を置く。 ・目的、テーマ性が明確。(手塚治虫記念館) ・宝塚歌劇、新しく出来る文化センターとの連携。(手塚治虫記念館) ・県や国を巻き込んだ宣伝(電柱を地中へ、ミュージアムロードの整備)(兵庫県立美術館) ・中身は大事だが、中身以上に建物が大事。それだけで見に来る。金沢、開館1年前からPR。地元中学生、朝顔をガラス壁面に。子どもたちに感動を与え、思い出を残す、将来、リピーターに。(兵庫県立美術館) ・駅名に括弧書きで美術館名を入れる。(兵庫県立美術館) ・コミュニティスペースを備え、近隣住民との共存が図られ、その理解のもとに運営されていること。(京都国際マンガミュージアム)</p> <p>○他のミュージアムとの連携 ・県内の他のミュージアムと、ミュージアムネットワークを組織し、年3～4回の意見交換の場を設けている。津波が起こった場合の作品の受け入れなども検討。(やなせたかし記念館)</p>
<p>コナンのまちづくりに関すること</p>	<p>○インバウンド観光客への対応 ・コナン通りにおける外国語表記サインやwifi、徒歩客のための休憩所の整備</p> <p>○コナンのまちづくり ・web会議システムを活用し、様々な方面(コナンファン、旅行関係者など)から意見を吸い上げる。 ・県として「まんが文化」を認め、「文化として育てていく」取組みを進めていくこと。(高知県庁) ・まんが甲子園、まんが家大会議やその中での企画(出張編集室やまんが家との対面など)都会でしかできないと思われることを地方でも可能にした。(高知県庁) ・県内で活躍する多くのマンガ家・施設との連携。まんが甲子園など、底辺を広げる活動(人材育成)が優れている。(高知県庁)</p>	<p>○コナンのまちづくりの更なる発展 ・北栄町を「コナンの聖地化」する。 ・宿泊施設の誘致。 ・JR由良駅(コナン駅)のリニューアル。</p>

コンセプト (案)

「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」のシンボルとなり、北栄町を訪れるファンや観光客だけでなく、幅広い年代の地域住民にも愛され、地元の誇りとなる施設。

青山剛昌先生の代表作「名探偵コナン」をはじめとする、青山作品の中に入り込めるような展示、充実した館内外の設備など、子どもから大人まで、どなたでも、何度でも楽しめる施設とする。

現在、青山剛昌ふるさと館にある雑誌やコミックス、原画等の青山先生の貴重な作品を今後も永く残していくために、作品にとって最適な状態で収集・保管・展示が出来るように、専門の人材を確保するとともに、十分な作業スペースや保管スペースのある収蔵庫を整備する。

※視察研修レポートより抜粋

○視察を終えて、青山剛昌ふるさと館が今後どのような施設であってほしいか

・ファンや観光客だけでなく、地元の人にも利用してもらえる施設であるべき。現在の青山剛昌ふるさと館は残して、出会いの広場に新館として建設し、中央公民館大栄分館も建設して複合施設とすれば、町民のあらゆる年代層が利用する事になりコナンに触れる機会が増え、施設への理解が進む。

いくら立派な施設を建設しても、町民に理解してもらい幅広く利用してもらえる施設でなければならない。

・家族で楽しめるスペースが必要。前庭に芝をはり、モニュメントの配置、木を植えて木陰を作り、天気の良い日には皆で楽しめるようなスペース。館内にはシアターを作り、ムービーを楽しむ。軽食喫茶で過ごせるような施設が望ましい。

多言語化もスマホを使い、QRコード化すれば多くの情報を提供できる。

・青山剛昌先生の想いをくんだ施設。ファンが喜ぶことを誰よりも願っておられ、またファンが喜ぶことは何か、誰よりも分かっておられる青山先生の考えこそ、反映していかなければならない。

視察を通し、既存の建物の増築だけでは、収蔵設備やバリアフリー対応を考えると、不足を感じる。青山先生の作品を、最適な状態で保ち、また今後も永くある施設として、地域に寄り添った環境・設備にすることを、経済効果も検証が必要ですが、移転新築が好ま

しいのではと改めて感じた。

常設展だけでなく、企画展を行うことを考えたスペース作り、設備・装置が必要だと学んだ。

教育的観点も踏まえた設計や常設展示（コナンの学習まんがを展示や体験に使うなど）があるといいのではと思った。

作品の保管場所の設備について、各視察先の担当者の方の話しや、施設内容を見て、青山先生の使用されている画材を考えても、より慎重な管理が必要であると感じる。

・北栄町のシンボルの一つである施設になってほしい。

地元の方中心にコナンを盛り上げるようになってほしい。

コナンミュージック、博物館等もつくり、観光名所になってほしい。

・地元に関心を持ってもらえるようなイベント、情報発信が必要。

青山剛昌ふるさと館だけではなく、由良宿の活性化に繋がるような企画が必要（由良宿1区・2区・3区と来場者が流れる仕組み）

狭いスペースなので、青山剛昌ふるさと館でグッズ販売せず、館内は青山先生関係の原画等を観覧してもらい、グッズは旧運転免許試験場跡地にある施設で販売することで施設の差別化が出来、施設の有効利用が出来るのでは。また、連休等の繁忙期の混雑解消が出来、長時間の待ち時間で帰ってしまう来館者の防止にも繋がるのではないか。

VWの活用方法として、撮影用として展示してあるが由良タクシーとコラボして、VWを購入しJR 由良駅から青山剛昌ふるさと館までのタクシーとして活用することで集客が上がるのでは。

以上のような取組みをされ来場者が増え、マスコミ等に取り上げられることで、町民にも青山剛昌ふるさと館が北栄町の情報発信のもととなれば、新館等に建設に前向きな意見が出てくるのでは。

・やはり移転新築するしかないとの前提で、シアター、読書スペース、コミュニティースペースが欲しいと思い、そのための広さ、規模感が必要。

・何を見せたいのか、テーマが明確化している施設。作品の世界に入り込めるような施設。

現在のキャパシティでは狭すぎて、見せ方にも限界があり、折角の原画の特別感がなくなっている。大人も子どもも楽しめる施設であってほしい。だからこそ、展示コーナーと休憩コーナーは分けて、雰囲気を変えるべきである。1日居ても飽きない、また来たくなるような施設に。(図書コーナーや休憩スペースの必要性)

また、原稿等については小学館との交渉になると思うが、保存をこちらでするのであれば、収蔵設備の管理も必要になってくる。先生がご存命だからという強みも活かしていけ

たら。

・もし新築・改築するのであれば、建てた後、柔軟に対応できて融通の利く施設が望ましい。展示物を入れ替えしやすく、作業スペース、保管スペースは複数の広い部屋が必要。原画を取り扱うのであれば、相当の知識が必要。

数十年先を見据えて、運営に無理が生じない施設にすべき。展示物は作り込みすぎず、可動式のもの、交換（入れ替え）可能なもの、アップデート可能なものにすべき。企画展、展示の入れ替えにより、リピーターに何度も訪れてもらえる施設となるのが望ましい。

スタッフの負担を軽く出来るよう、デジタル機器等の活用も必要。

・明確なテーマを持ち、来訪者が楽しみ、感動と共感を得る施設であることを少ない人数で共有し、運営している手塚治虫記念館は好感が持てた。

兵庫県立美術館は素晴らしい施設で、オープン前からのPRや収蔵管理手法等、学ぶべきところが多々あった。

・色々な規制のある中で「できないのでは・・・」と思うことが多い印象。できなさそう⇒だから「やめておこう」「やらない」のではなく、できないかもしれないけれど、「やってみよう！」の部分が今後の施設のあり方に全て繋がっていく。許可が必要ならば、黒字の時点で取れる特許は取っていくべきだと思う。手塚プロダクションが独立しているように、青山剛昌プロを置いていくことも視野に入れるべき。

各位

山岡作成

コナンによる町づくりプラン私案

ミュージアム先進地への視察を終え、いよいよ「在り方検討委員会」としての
答申をまとめる段階に入ったとの認識に立つ今、私案を以下のように提示して
議論への一助になれば幸いである。

1. 基本的な認識

「在り方委員会」の使命は、そもそも手狭になった青山剛昌ふるさと記念館の
今後はどうあるべきか、移転新築か、増改築か、はたまた現状のままで良いかの
選択を北栄町、北栄町議会が判断するさいの方向を示すことが目的として組織
された。

私は、名探偵コナンが国際的に大人気を集めていることに鑑み今後、インバウ
ンドがさらに増大することは明らかであり、5年後10年後を想定して検討すべ
きであると思い、やがて現在の境港市・水木ロードに匹敵する観光地になり得る
との確信があり、例えば国内50万人、海外とくにアジア圏からのインバウンド
50万人の計100万人が訪れることとの前提に立つべきであると考えている。

したがって現在の目先の増改築では対応できず、また建物だけの議論に終始

してはならないとも考えており、町全域の町づくりの視点に立つべきであると訴えたい。

その観点に立てば、在り方検討委員会は来春を目途に建物自体の規模・機能と目的に沿った中身を、視察結果を踏まえて案をまとめ町長あてに答申するとし、引き続き「町づくり検討委員会（仮）」を立ち上げ、検討・企画すべきであると主張するものである。

2. 建物の基本的な考え方

現在の平板的な展示から脱却し、より深彫りした見せ方を提示しなければならない。すなわち体験型・参加型であり、来場者が触れることが出来るものにすることが満足感を与え、リピーターに繋がることになる。

また、バリアフリーも含め滞在時間をゆったり確保できる安全、快適、全世界・国際的に満足できる内容を提示しなければならない。

同時にお金が落ちるといった収益性を期待できることが望ましい。

ただし、一部に議論されている飲食、物販、宿泊機能を併せ持つものという意見には同調できない。

それらは想定を超えた来館者が押し寄せるようになった場合に、再び拡張・リニューアルする繰り返しを招き兼ねないからである。したがって、当初から少し大き過ぎたかなと思われるぐらいの規模感が必要であると考えます。

上記の飲食、物販、宿泊施設は近隣に別途、考えるべきで、それらと館の連携効果を図ることが大切ではないか。

換言すれば、飲食や宿泊施設は、館と並んで町づくりの旗艦施設であって物販は最低限の規模を館内にあってしかるべきであろう。

したがって新館には、案内・表示機能を充実させ、来館者への親切丁寧なサービスを休憩スペース、コミュニティ機能を持たせて確保すべきではないかと思うところである。

3. 町づくりの基本線

旗艦施設の最大の目玉は、キャラクターホテルであると考ええる。

海外から押し寄せる来館者にとっては、北栄町はコナンの聖地を訪れるという感覚であろう。その期待に応えるには、キャラクターホテルが一番ではないか。

幸い駅前の広大な（2畝以上）JA 遊休地は利活用に最適地であるし、町の所有地の巨大迷路のある旧免許センター跡地があり、施設建設に膨大な資金が必要であることを考えれば、土地取得費が不要だというメリットは何物にも代えがたい利点である。

4. 資金調達への一考察

インバウンド誘客に力を入れている国の施策を考えると、巨額の資金を必要とする町づくり事業には、国からの積極的な資金導入を考えざるを得ない。

国交省・観光庁、経産省、総務省等々、しのぎを削る形での地方への補助を検討している今がチャンスと捉え、地元選出の国会議員諸氏の理解と応援を得て検討に着手してはどうか。

国の補助制度は原則として最大 1/2 であり、県からは 1/4 になっている。

残りの 1/4 を地元調達というハードルを、どう乗り越えるか。町の将来性を担保に新しいファンドの形成もあってしかるべきであり、SPC 化もあり得る。

このあたりの計画策定には、前述の町づくり検討委員会に引き継ぐべき課題となろう。

ただ、私案としては①新館、②旗艦としてのキャラクターホテルが核であり、飲食・物販は商店街の活性化によって図られるべきものとする。

また町全域の聖地化は、なにも箱物を林立させる必要はなく VR によって可能となろう。

むしろ VR の導入により、町全体の現状を大きく変えずに、良き街並みや農村風景は残し、ポケモンならぬコナン GO をイベントとして年、数回に実施して多くの若者による犯人捜し=町の知られざる魅力の周知につなげるゲーム化が創出されてよい。

そのためのセイフティネットとして、町の安全を確保し混乱防止を担保するための法 (=条例) 整備を町議会に対し要請しなければならない。